

大和村防災マップ

津名久・思勝・大和浜地区

我家の避難場所

避難時の心得

- ラジオ、テレビで最新の気象情報、洪水情報を入手しましょう。
- お年寄りや子供は、早めに避難が必要です。
- 避難する時の荷物は必要最小限(非常食、飲料水、懐中電灯、携帯ラジオなど)にし、2人以上の避難を心掛けましょう。
- 徒歩での避難を心掛けましょう。車を使つての避難には、危険を伴うことがあります。
- 避難する時は、まず水の浸からない道路へ速やかに移動しましょう。
- 洪水による水の流れが、場所によっては相当速いことが予想されます。避難時には、水の流れの速さにも十分注意しましょう。
- 村役場などからの避難の呼びかけがなくても、各人が洪水や崖崩れなどの危険を感じた場合には、自主的に避難しましょう。

土砂災害危険箇所・危険区域図

土砂災害の発生時には、こんな現象が起こることがあります。

- 山崩れがする
- 雨が降り続けているのに、川の水位が下がる
- 川の流れが急激に遅くなる
- 斜面から水が湧き出す
- 床や戸の隙間から水が滲み出る
- 地面がひび割れが広がる
- 小石がハラハラ落ちてくる

◎いざという時のために、覚えておきましょう。

- 1時間以上100ミリ以上の雨が降ると、土砂災害の危険が高まります。
- 土砂災害は速度が速いため、日頃から家族全員で避難降り始めてから100ミリの降土砂の流れる方向に対して場所や避難する道順を決め、雨量になったら注意が必要。直角に逃げるようにしましょう。覚えておきましょう。

◎デマにまどわされない!!

災害時は、デマなどに惑わされやすく、報道機関や区市町村、消防・警察などから情報に注意しましょう。

◎山崩れ・崖くずれ・津波にも注意!!

山崩れ・崖くずれ・津波が発生しそうな地域では、すばやく避難しましょう。

津波の心得

津波情報に注意する

地震が発生したら、テレビやラジオ等を通じて津波情報が入ります。津波の到達時刻が予測された場合は、危険個所より早く避難しましょう。

安全な場所に避難する

津波情報の発表や強い揺れを感じた場合は、速やかに高台に避難しましょう。また、津波は1波より数波連続して襲ってくる場合もあり、情報、注意報発表後は気をゆるめなないようにしましょう。

津波のしくみ

津波の発生

1. 地震により海底が隆起・沈没
2. 津波の発生
3. 津波の伝播

地震が発生したら、テレビやラジオ等を通じて津波情報が入ります。津波の到達時刻が予測された場合は、危険個所より早く避難しましょう。

津波の速さ

津波は、海が深いほど早く伝わる性質があり、沖合ではジェット機に匹敵する速さで伝わり、浅瀬に近づくと速さが遅くなる。津波が陸地に近づくと、波から来る波の前の波に追いつき、波高が高くなります。

津波の遡上高

「津波の高さ」とは津波が引く場合の水位(平常水位)から、津波によって海面が上昇した時の高さの差をいいます。さらに、海岸から内陸へ津波が、かけ上がる高さ(標高)を「遡上高」と呼んでおり、高い場合は3~4倍程度までなることが知られています。

土石流危険渓流

- 渓流の勾配が急である。
- 渓流に大きな石がごろごろしている。
- たくさんの土砂が堆積している。
- 上流が山崩れなどで荒れている。
- 過去に土石流があった。

地すべり危険箇所

- 過去に地すべりがあったところ、今も少しずつ動いている。
- わき水や地下水が豊富である。
- 断層があるところやもろく崩れやすい岩石がある。
- 火山作用あるいは温泉の作用で粘土化した土がある。

急傾斜地崩壊危険箇所

- 山の傾斜に亀裂やわき水がある。
- 岩石がもろく崩れやすい地質である。
- 過去に山崩れがあった。
- 山崩れがあった場所に隣り合っている。
- 急斜面で、軟弱な地盤がある。
- 水の集まりやすい斜面地形である。
- とまどき落石がある。

凡例	
名称	記号
避難場所	
土石流危険渓流	流域 被害想定区域
急傾斜地崩壊危険箇所	危険箇所 被害想定区域
地すべり危険箇所	危険箇所 被害想定区域
標高色	
10~20m	
0~10m	

